

このページでは、避難生活での疑問や、除染・補償・賠償に対する質問にお答えします



佐藤義清さん(前田)

(質問) 避難後、母が歩けなくなり伊達市内の介護施設に託さざるを得なくなりました。「家さ帰っち」と泣かれると切ないです。

(回答) 避難後、体調を崩したり、体力が低下したりして、介護が必要になったお年寄りが数多くいらっしゃいます。その中、村に帰る日を、日一日と待ちわびているように、ご家族も心を痛めていらっしゃると思います。

村内の特別養護老人ホーム「いいたてホーム」では、職員の確保に努めながら運営を維持しておりますが、現在は新規の受け入れを休止しているところです。

村では、お年寄りの健康問題や、介護の問題について、随時相談を受け付けております。また、村の保健師や、村地域包括支援センター職員の訪問相談も行っております。「家に帰るまで元気でいたい」というお年寄りの願いを、村も一緒に支えていきたいと考えておりますので、お困りの際はどうぞ気兼ねなくご相談ください。

問 村健康福祉課福祉係 ☎024-562-4259
村地域包括支援センター ☎024-562-4214



菅野克之さん(比曾)

(質問) 除染の立ち会いなどで県外の避難先から村に帰る機会が多くなるかと思われます。高速道路の無料措置は次年度も継続されるのでしょうか。

(回答) 避難指示区域内から避難している住民を対象とした高速道路の無料措置は、当初、平成24年4月1日から平成25年3月31日までの期間で実施され、その後、平成26年3月31日まで1年間延長されました。この無料措置は、一時帰宅など生活再建に向けた避難者の移動を支援するために実施されてきたものです。この年度末に期限を迎えるわけですが、ご質問にあるように、今後も除染の立ち会いや家の手入れなどで、避難先から村内の自宅へ通う機会は少なくありません。

高速道路の無料措置が延長されるかどうかを改めて国に確認したところ、1月22日現在では、検討を行っている段階との回答でした。

次年度の無料措置延長の有無が公表された際には、村からも、お知らせ版や情報タブレット端末などを通して、村民の皆さまにすみやかにお知らせいたします。気にかかる案件ではありますが、決定し公表されるまで、もうしばらくお待ちください。

「ご協力ありがとうございました」
1月15日 伊達東応急仮設住宅・村役場飯野出張所でお聞きしました



刺し峠

「白狼の足跡を追ってみよ」って、お告げがあったんだ。起きでみたら、外は雪積もってで獣みでな足跡あったんだ。二人は「こいづこそ神のお告げ、白狼の足跡に間違えねえ」

きやったんだ。ほれがら二人は、七日七晩断食して祈ったんだ。ほうして満願の十月十七日の朝、夢枕さ神様たつて「白狼の足跡を追ってみよ」って、お告げがあったんだ。二人は「こいづこそ神のお告げ、白狼の足跡に間違えねえ」

墨虎は逃げでって、洞穴さ隠ちえだんだ。んでも蔵人らに見つけらちえ、蔵人らは墨虎ごど霊山見渡さいる峠ん所さ連でって刺し殺したんだ。ほれがらは、ほの峠ごど「刺し峠」つって、「刺し」が「佐須」んって、ほの辺りのごど「佐須村」つって言うようなんだ。墨虎ごど捕んだ山ごどは、「虎捕山」つって言うようなんだ。

んで、蔵人はこの地さ住み着いで、ほの子や孫が代々蔵人らごど助けだ山の神様ごど守り続けでんだ。ほいつちや、白狼は山の神様祀った社の前で、今でも皆らごど見守り続けでる。つうことだ。

「いいたて民話の会発行「語って聞かせっかい」から要約」

誕生おめでとう

赤ちゃんの名まえ	親の氏名	行政区
巻野 莉 渚 ちゃん	修一・敦子	伊丹沢
佐藤 優 乃 ちゃん	和真・麻弥	前田
大内 琥 羽 くん	葵・美紀子	佐須
鈴木 芽 依 ちゃん	和博・好恵	深谷
青山 楓 斗 くん	正則・妃七子	草野

すくすくと元気に育ってね

結婚おめでとう

氏名	行政区
菅野 真 樹	蕨平
荒川 美 穂	福島市
小山田 君	前田
本田 静 花	福島市

いつまでもお幸せに

おくやみ

氏名	年齢	行政区
花井 サ ワ	83	宮内
菅野 サ 實	84	上飯樋
佐藤 清 藏	95	二枚橋・須萱
齋藤 ソ ノ	91	八木沢・芦原
齋藤 好 一	83	深谷
菅野 マ サ イ	87	草野
菅野 主 悦	84	比曾
山田 一 雄	76	伊丹沢

ご冥福をお祈り申し上げます

(12月21日から1月20日までに届け出のあったものを掲載)
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出のときに住民係へ申し出てください。

ひとのうごき

ひとのうごき		12月1日~30日までの人口動態	
(平成25年1月1日現在)		◆◆人口動態◆◆	
人口	今月(前月比) 昨年同期	転入	4人
男	2918 (±0) 2941	転出	4人
女	2996 (-2) 2993	出生	5人
計	5914 (-2) 5977	死亡	7人
世帯数	1649 (-2) 1712	(平成22年国勢調査に基づき増減された現住人口)	

編集後記

600号目の「広報いいたて」です。創刊の昭和38年は東京オリンピックの前年。それから50年が過ぎました。▼創刊以来のバックナンバーには、夢を描き汗を流して暮らした村の姿が写っています。発行を期す村をあげての事業や、村民総出のお楽しみイベントなどありませぬ。読んでいくうち何度も胸が熱くなりました。▼諸先輩が記事にこめてきた思いにも触れ、教えられるました。避難が続く中で、村再生の取り組みが動き出します。もっともつと広報でお伝えすべきことがあるはず。伝える広報に一歩ずつでも近づきたいと願いました。▼どうか今後共々愛読をお願いいたします。(星)